

岡野馨 （まきの） フランスマン文藝翻譯家。明治二十二年一月、千代田東京生れ、
昭和十七年十一月十一日歿（六十九歳）。筆名岡野のまきの。父は能
人岡野知十。大正四年東京外國語學校佛語科卒。十年渡佛。陸軍大學
校教授。

譯書、マナトール・フランスマン作「エス・ボチーアの罪」(岡野のまきの名、譯、大正十二年六月二十日春陽堂、再刊「内題「シムルゼムトル・ボチーアの罪」昭和七年八月十五日「春陽堂文庫」)、木川恵一郎著「破れ暦」(大正十二年七月十五日編刊)、シムルゼム作「小間使の日記」(岡野のまきの名、譯、大正十四年九月八日春陽堂)、可現代俳諧「西山説集」(共譯、昭和四年二月二十日新潮社「世界文學全集」)、岡野知十著「臺灣」全二冊(昭和八年九月十二日編刊)、岡「味餘」(昭和九年八月十五日編刊)、マナトール・フランスマン作「女優タイム」(譯、昭和十二年十一月五日新潮社「新潮文庫」)、デブネ著「戦争と人」世界大戰後の省察」(譯、昭和十九年十月二十日岩波書店「軍事文化叢書」)、オクターブ・シムルゼム作「小間使の日記」(譯、昭和二十六年三月十五日小山書店)、シムルゼム作「小間使の日記」全一冊(永井順共譯、上巻、下巻、昭和二十七年六月二十日新潮社「新潮文庫」)等。